

平成28年 2月15日

陳情第36号

小田原駅東口広域交流施設ゾーン整備事業についてライブラリー機能の充実検討を求める陳情書

小田原駅東口広域交流施設ゾーン整備事業についてライブラリー機能の充実検討を求める陳情書

【陳情趣旨】

市は平成27年12月に「お城通り地区再開発事業・広域交流施設ゾーン整備実施方針（案）」を作成し、その内容は確定したものではないとしてモデルプランを示しました。

その中には公共・公益施設として2,000㎡（ライブラリー機能1,300㎡、子育て支援機能300㎡、コンベンション機能400㎡）が含まれています。

平成27年2月制定の「小田原市図書施設・機能整備等基本方針」では本市が目指す図書館像「出会う図書館」を達成するために（仮称）「駅前図書館」を設置し、老朽化した現・市立図書館の代替に充てる方針が示されています。

現在の市立図書館は「移民の先駆者 星崎定五郎」氏が「子供の勉強のための施設を」と言って市に寄付した資金を基に建設されたと図書館のホームページに書いてあります。先人星崎氏の意味を受け継ぐ後輩市民として公共・公益施設面積の全てをライブラリー機能と子育て支援機能に充てるべきであると考えます。

図書館は静かに本を読むだけの場所ではありません。幼児期の読書体験が知の土台を築きます。人に対する投資こそ地方創生のエンジンになります。

少子化の進行する社会の中であって居場所のない子供達があります。昨年8月、鎌倉図書館の職員のツイートが話題になりました。下のものです。

---

2015. 8 .26 もうすぐ二学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。マンガもライトノベルもあるよ。一日いても誰も何も言わないよ。9月から学校へ行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館も思い出してね。

2015. 8 .27 つらいきもちをかかえているあなたへ 図書館はあなたの居場所になりたいと思っています。心のすみっこに「としょかん」をおいてね。図書館にはいろいろな本があるよ。疲れた心によりそのような本が見つかるかも。

---

小田原らしい知の拠点として市民が誇りにし、気軽に利用出来る「出会う図書館」をここに整備して頂きたいと思います。

仮に諸般の事情からライブラリー機能が1,300㎡に限定される場合には、何階であるかは別としてワンフロアにそのスペースを取るよう設計する事を希望します。（具体的なレイアウトなどについては図書館協議会等に諮ってご検討頂けるものと存じます。）

本件につきましてはパブリックコメントとして市当局にも具申しましたが、議会におかれましてはご賛同を頂きたく陳情申し上げます。

【陳情項目】

小田原駅東口広域交流施設ゾーン整備事業についてライブラリー機能の充実検討を求めます。

平成28年2月15日

小田原市議会議長

武松 忠 様

提出者

小田原市栄町1-11-11-903

石井 義高 ㊞